

まちづくりや地域的課題における住民の参加と期待感について

秋田大学 学生会員 ○川原さおり
 秋田大学 正会員 木村 一裕
 秋田大学 正会員 日野 智
 秋田大学 正会員 田口 秀男

1. はじめに

人間関係資本（ソーシャル・キャピタル）は、「地域社会（コミュニティ）がうまく機能していくような、人間関係や互いの信頼に基づいたネットワークのつながり」などと定義されており、まちづくりや地域的課題の解決においても有用であるとの認識からその意義等についてさまざまな研究が行われている。しかし「資本」という語が持つ意味を考えると、ソーシャル・キャピタルは地域において、人間関係が貸し借りできる価値を持ったものであるという認識が必要である。また、地域住民のまちづくりに対する責任感がソーシャル・キャピタルを保証するものとみなすことが可能と考える。以上の観点から本研究では、地域における課題に対する認識と解決可能性に対する期待感の状況から、まちづくりにおけるソーシャル・キャピタルの意義を考察することを目的としている。

2. 調査概要

本研究では秋田市の桜ヶ丘、泉、大住、旭南の4地域を対象に、地域への期待感、責任感、貸し借りの状況、生活満足度、地域活動などについてアンケート調査を行った。表1には調査概要を、表2には対象地域の特徴を示している。

表1 調査概要

対象	桜ヶ丘、泉、大住、旭南
主な調査項目	1. 貸し借り ①当番を代わってもらえる ②相談をし合える ③おすそ分けのし合い 2. 期待感 ①高齢者の安全・安心について ②子供の安全・安心について ③活気減少について 3. 責任感 ①高齢者の安全・安心について ②子供の安全・安心について ③活気減少について
配布枚数	1地域150世帯に配布。計600世帯
回収枚数	1. 桜ヶ丘 58世帯（回収率38.7%） 2. 泉 39世帯（回収率26.0%） 3. 大住 53世帯（回収率35.3%） 4. 旭南 56世帯（回収率37.3%）
全体回収枚数	206世帯（回収率34.3%）
最も回答者の多い世代	1. 桜ヶ丘 50代（40.7%） 2. 泉 40代（27.3%） 3. 大住 70歳以上（30.6%） 4. 旭南 60代・70歳以上（28.0%）

表2 対象地域の特徴

地域	特徴
桜ヶ丘	丘の上に位置する団地。あまり古い土地ではない。高齢化は進行していない。回答者は50代が一番多い。
泉	比較的若い地域で、公園に隣接しているハミングロードでは、清掃活動や、中央に位置する公園では祭りもあり、地域でシンポジウム等もある。回答者は40代が一番多い。
大住	オレンジロードと名づけられた広場を中心に祭り等のイベントもあり、活気づいている。子供の安全を守る安全パトロールの活動もある。回答者は60代、70歳以上が大半を占める。
旭南	高齢化が少々進行している。安全パトロールの活動もある。他地域との交流も図られたりなど、地域活動も盛んであった。大住と同様回答者は60代、70歳以上が占める。

3. まちづくりに対する期待

ここではソーシャル・キャピタル形成に関する内容を把握するために、「各地域の生活満足度」、「地域における貸し借りの状況の特徴」、「地域活動が住民同士のつながりに効果をもたらすかに関する認識の特徴」、「活動参加状況の特徴」、「期待感」について考察する。

生活満足度（図1）についてみると、高齢者の割合の高い旭南と大住地域で満足度の低い結果となった。旭南は期待感（図2）も低く、大住は期待感については高い結果となった。貸し借りの状況（表3）については桜ヶ丘が高く、効果認識（表4）、参加状況（表5）については大住・旭南が高い割合となった。大住地域は生活環境の満足度は低いが、期待感が高く、活動への参加、活動への効果認識も高いという特徴がみられた。

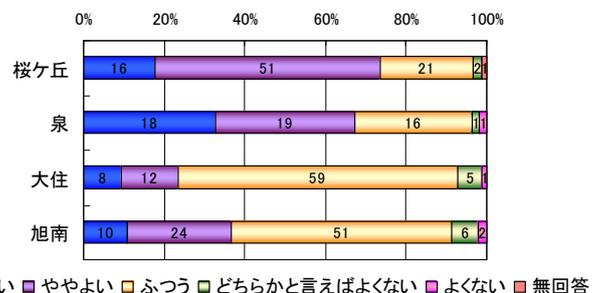


表3 貸し借りの状況の特徴

① 桜ヶ丘は住民同士の貸し借り、交流が多く、泉は低い
② 旭南と大住は比較的同じ傾向の回答が多い
③ 当番を代わり合えるのかという問いについて、大住が一番高い

キーワード：人間関係資本、ソーシャル・キャピタル、期待感、責任感

連絡先：〒010-8502 秋田市学園町1-1、TEL(018)-889-2368、FAX(018)-889-2975

表4 活動効果認識の特徴

- ① 大住が活動への効果認識が全体的に高い
- ② 桜ヶ丘と泉は効果認識が全体的に低いように思える
- ③ 運動会に対する効果認識が大住が他地域よりはるかに高い
- ④ 旭南は比較的高い

表5 活動参加の特徴

- ① 大住が一番活動参加の割合が高い
- ② 大住と旭南は比較的参加割合が高い
- ③ 桜ヶ丘は清掃活動に関しては高いが、他は低い傾向にあった
- ④ 協働の除雪活動については旭南の参加割合が一番高かった
- ⑤ 泉が一番参加割合の低い結果となった

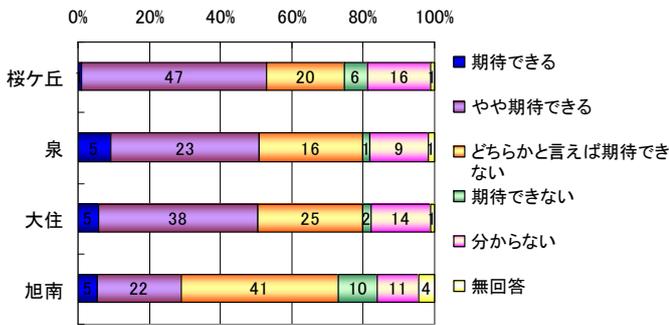


図2 地域別期待感

生活満足度における地域的課題解決への期待感が及ぼす影響について、数量化理論Ⅱ類による分析を行った。表6に各要因のレンジの値を示す。比較的若い世代の多い桜ヶ丘と泉では、子供の安全・安心についての期待感のレンジが高いのに対し、大住と旭南は高齢者の課題の解決に対する期待が満足につながる結果となった。

表6 生活満足度に影響する要因

期待感	桜ヶ丘	泉	大住	旭南
迷惑行為についての地域の課題解決力に期待できる	1.64	0.64	1.59	1.34
高齢者の安全・安心についての課題解決力に期待できる	1.16	0.20	2.88	3.07
子供の安全・安心についての課題解決力に期待できる	2.24	2.33	2.72	1.35
公園、道路などの生活環境の課題解決力について期待できる	1.44	0.31	1.60	1.67
活気減少に関する課題解決力について期待できる	0.68	2.74	2.01	2.55
地域の課題に対する行動力全般について期待できる	0.55	0.28	0.55	0.72
相関比	0.43	0.32	0.41	0.62

4. ソーシャル・キャピタル関連要因の構造

以上の分析結果のほかに、地域活動への参加状況などから、地域ごとの特徴を表5に示す。泉、桜ヶ丘は、生活満足度、期待感ともに高いが、活動への参加等は低くなっており、現状で十分だと考えた結果ではない

かと思われる。これに対し大住では、満足度は低い、地域への期待感が高くなっている。その背景には地域の活動の活発さや効果認識の高さが影響しているものと思われる。旭南の場合は活動効果に対する認識や活動参加は比較的高いものの、貸し借りの状況も低く、結果的に期待感も低い状況になっているものと考えられる。

以上の分析から、ソーシャル・キャピタル関連要因の構造について、共分散構造分析を適用した結果を図3に示している。この図が示すように、「期待」には「責任」の裏づけという対応があり、また「住民の活動への効果認識」、「生活環境への評価」が関係するという結果から、責任の上に成り立つ地域への期待感との関係が示された。

表7 地域別の特徴

回答項目	地域	桜ヶ丘	泉	大住	旭南
生活満足度		◎	◎	▲	▲
貸し借り状況		◎	▲	○	△
活動効果認識		○	▲	◎	○
活動参加		△	▲	◎	○
期待感		◎	◎	◎	▲

◎：とても高い ○：高い △：やや低い ▲：低い

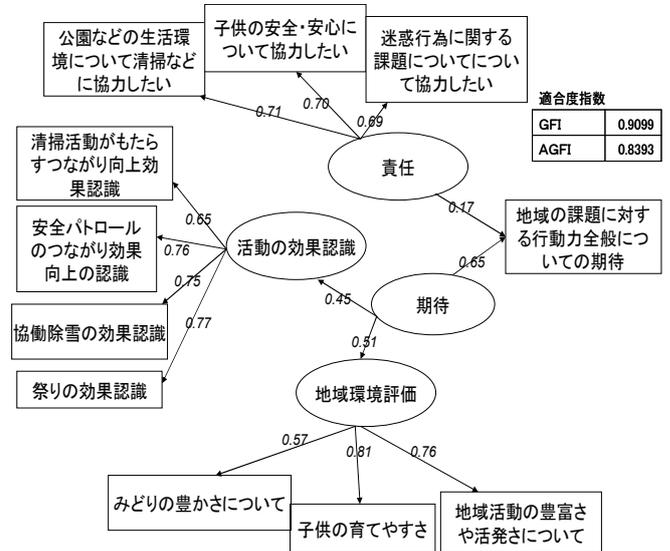


図3 期待感へのパス図

5. おわりに

以上のように、地域への課題全般の解決に対する期待感について、地域環境への評価、地域活動への効果の認識が影響することがわかった。今回のアンケートで、属性や、生活満足度、活動効果の認識が影響し、その地域に対して、期待できるかという意識が、責任感、地域の課題共有意識、協力意識に影響するという結果となった。